芝浦工業大学 交換留学プログラム 参加後アンケート

海外派遣プログラムに参加したみなさまに、海外での経験を今後の学生に共有していただくため下記アンケートの記載をお願いしています。
記載いただいた内容は、芝浦工業大学のWebサイトやパンフレットに掲載いただくことがありますので、その前提でご記入をお願いします。
「留学するかどうか、もしくは留学先をどこにするか等、判断を迷っている後輩向け」という視点で記入をお願いいたします。

留学先情報

• 渡航型/オンライン型	渡航型			
• プログラムタイプ	研究室配属型			
• 国・地域名	ドイツ			
• 都市名	シュトゥットガルト			
• 留学先大学名	シュトゥットガルト大学			
• 留学期間	半年~1年(2セメスター程度)			
• プログラム期間	プログラム開始時期 (2021年9月上旬等)	2024年9上旬	プログラム終了時期 (2021年9月上旬等)	2025年8月中旬
• 留学時期 （主に留学をしていた時期にチェックをお願いします）	博士以上			
• 上記協定校を志願した理由を教えてください。	私が所属している研究室では研究室間共同研究としてヨーロッパのERASMUS+に支援を受けております。 また留学先の研究室は血管内皮細胞の培養技術を有しており、新たな技術の獲得と、今後のキャリアで必要な留学経験の獲得を目的として留学を決意いたしました			
• （研究室配属型のみご回答ください）受入大学の指導教員をどのように探したか教えてください。 （SIT指導教員の紹介等）	上記にも記載しておりますが、私が留学先を探していたところ、ERASMUS＋の提携が決まり、所属研究室の指導教員の先生から推薦をいただきました。			

留学中の学籍について

• 休学の有無	休学しなかった
• 休学せずに渡航した方は、休学せずに渡航できた理由を記載ください。 （留学が必須の学科だった、必修科目が渡航時期になく単位も十分に取り終えており、かつ指導教員の許可も得られ、就活前に帰国することができたため、等）	留学する前に日本科学機構（JST）の助成金を使用して本学が企画している博士学生支援を目的としたSPRINGに採択されており、在籍中であれば生活費の支援や留学中の滞在費の支援を受け入れられるため休学せずに渡航しました。

留学先での学習・研究状況

• 留学先での学習・研究状況につき、概要を記載してください。	１ヶ月のドイツ語講座があったため、10月から本格的に研究を進められました。 初めはオフィスで実験装置の設計を行い、３ヶ月後から実験装置の使い方や細胞培養の方法を学び始めました。 半年後から実際に実験が始まり、帰国直前に実験が終了しました。

- 授業を履修した場合、具体的な科目の情報教えてください。
（たくさん履修した場合は適宜追加して記載してください。また科目概要など、欄に収まらない場合は、適宜行の幅を大きくして記載してください。）

科目名①	ドイツ語講座	単位数 （現地単位数）	不明
科目概要	未経験者のための初歩的なドイツ語講座を受講しました。文字の読み方や数字の数え方などの初歩から、現在系や過去形の少し実用的な範囲まで教えていただけました。短期集中型のため、１ヶ月間平日約３時間ほどの授業でした。		

留学先での学習・研究以外の交流活動

- 交友関係、部活、サークル、日常生活などで特筆して後輩に伝えたいことを記載してください。

少し田舎の街であったため、英語話者が少ないように感じました。
留学先で上記のような短期講座がない場合、スーパーなどで会話できるくらいの簡単なドイツ語は習得しておくと街に慣れやすいと思います。

自由記述欄

- 留学で感じたこと等、自由に記載してください。
（当初の留学計画を達成でいたか、新た発見はあったか、どのような苦労があったか、留学前に準備しておけばよかったと振り返って感じることはあるか、後輩へのアドバイス、等なんでも結構です。）

私の場合は自分のオフィスを割り当てられたことも原因だとは思いますが、ドイツの学生は国際的に見れば日本人と同じくシャイな部類に入ると思います。
そのため勇気を出して自分から話しかけにいくことが大事だと思います。
また日常会話ではドイツ語で会話しているので話に入りづらいと感じるかもしれませんが、「何の話してるの？」と英語で会話に入ることでそのまま英語での会話に入れてもらえます。
大学内であれば大抵英語での会話に問題はないので、他の国よりも話に割ってはいる勇気が必要だと感じました。
またそれが難しい場合、ドイツ国籍ではない学生を探してみるとその学生もドイツ語を話せずに困っていることがあるので会話のきっかけになるかもしれません。

留学手続き時に苦労した点

- 協定校への出願時に苦労した点や、後輩へのアドバイスがあれば記載ください。（提出すべき書類、準備が大変だった書類など）

シュトュットガルト大学では全てオンラインでやり取りが可能なので苦労したことはあまりありませんでした。
強いて言えば留学先で印刷する方法がなかったので、ipadで電子的に署名をしたりなどして対応しました。
日本ではコンビニなどで簡単に印刷が可能ですが、渡航先によってはしっかりとした印刷所に持っていく必要があり、その場合はたった数枚の印刷でも１週間後郵送などの場合があります。
渡航先の印刷方法を調べておくと、契約書の印刷などがスムーズかもしれないです。

- ビザ申請など、渡航準備時に苦労した点や後輩へのアドバイスがあれば記載ください。（提出すべき書類、準備が大変だった書類など）
（渡航型プログラムのみ。オンライン型は記入不要です。）

ビザの申請に必要な書類は大使館のホームページを見ればわかりますが、実際には多くの書類が必要に感じました。
私の時は滞在先住所や、留学先の大学が発行してくれた招待書など必要書類以外にも持参したところいくつか回収していたので、取得した留学関係の書類はできるだけ持って行き、全て渡すと必要な分だけ回収されます。
一般的には１ヶ月以上発行に時間がかかりますが私の場合は２週間で発行されました。
もしかしたら私の場合はヨーロッパのERASMUS＋の影響かもしれないので必ず２週間で発行されるとは限りません。

- その他、準備にあたり、後輩にアドバイスがあれば自由に記載してください。

滞在先の宿泊施設などの情報　（渡航型プログラムのみ。オンライン型は記入不要です。）

- 宿泊先のタイプを教えてください。
（協定校の寮、一般のｱﾊﾟｰﾄ、ﾎｰﾑｽﾃｲ等）

学生寮で４人のルームシェアでした。

- 上記宿泊先はどうやって手配しましたか？（出願時に協定校に依頼することができた、協定校から紹介してもらった、自分で探した、等）

出願時に留学先の国際部の方から申請先のURLをいただき、そこからオンラインで登録しました。

- 現地空港到着後、どうやって上記宿泊先に向かいましたか？交通手段や所要時間を教えてください。

フランクフルトで一泊後、高速鉄道で約１時間半ほどでシュトュットガルトに到着します。

- 上記宿泊先から日々協定校へはどうやって通学していましたか？交通手段や所要時間を教えてください。

電車とバスを乗り換えて片道３０分ほどでした。

- 上記宿泊先の様子を教えてください。広さ、住み心地等。

ルームメイトそれぞれに個別の部屋があり、共用のキッチンとダイニング、シャワールーム、トイレがありました。
洗濯機は学生寮で共用で一台ありました。
部屋にはクローゼット、机、椅子、ベッドとマットレスがあり、枕やブランケットは別途用意する必要がありました。

留学中の費用や奨学金等　（渡航型プログラムのみ。オンライン型は記入不要です。）

概算で結構ですので、参考までに記入してください。

初期費用

内訳	金額（円換算概算）	概要
協定校へ支払った費用 （授業料、初期登録費用等あれば）	不明	不明
往復航空券代（往復）	３１万＋３万	日本とフランクフルトの往復とフランクフルトとシュトゥットガルトの往復
海外旅行保険・危機管理費用 （全期間分）	20万＋18万	本学指定の保険とドイツの国民健康保険一年分
その他費用（ビザ申請、パスポート取得費等 、英語試験受験料等）	不明	不明
計	７２万	

1ヶ月あたり費用

内訳	月額金額	概要
宿泊費/月	6万	
食費/月	５万	
その他/月		
計	１１万	

奨学金情報

奨学金名	月額金額	概要
芝浦工業大学海外留学奨学金		
計	¥0	

写真共有のお願い　（渡航型プログラムのみ。オンライン型は記入不要です。）

留学中の様子が分かる写真を4枚ほど共有ください。またそれぞれの写真に説明分を加えて下さい。
写真はそのまま掲載しますので、掲載してもよい写真を貼り付けてください。

大学のシンボルとなる建物の写真等をお願いします	宿泊先の様子が分かる写真等をお願いします
	 
説明文	説明文
学校のシンボルかわかりませんが、キャンパス内にある地下鉄の入り口です	ベッドの写真と棚、椅子、窓の写真です

その他、任意の写真	その他、任意の写真
説明文	説明文

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。